

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	ロングテール化する地域の在宅看取り、一馬力の医療機関が支える在宅医療 ～長野県医師会在宅医療実態調査～
演者名	小松裕和 1)4)、杉山敦 2)4)、岡田啓治 3)4)
所属	1)佐久総合病院地域ケア科、2)杉山外科医院、3) 岡田内科、4) 長野県医師会在宅医療推進委員会

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

地域包括ケアシステム構築に向けて在宅医療推進の施策が展開されているが、都道府県レベルでの在宅医療の実態調査は少なく、在宅医療推進の重点課題がデータとして把握できていない。我々は長野県医師会として在宅医療推進の施策を検討するために、長野県全体の在宅医療の実態調査を実施した。

方法

長野県医師会在宅医療実態調査は、2013 年 9 月に長野県内の全 1396 医療機関を対象に、21 の郡市医師会を通じて、質問紙を用いた郵送法により実施した。質問紙では、訪問診療・往診・看取り対応の有無、在宅療養支援診療所（病院）の届出の有無、年間在宅看取り数（居住系施設も含む）、2013 年 9 月の訪問診療実施件数、今後の訪問診療実施の意向、訪問診療に従事する医師数、医師の年齢構成、24 時間対応の負担などの回答を求めた。

結果

回収率は 73.1%であった。長野県内では 654 医療機関（64.1%）が在宅医療を実施し、年間 2138 件の在宅看取りが行われ、その中の 592 件を 153 の在宅療養支援診療所（病院）で対応していた。年間 30 件を超える在宅看取りを実施している 8 医療機関で在宅看取り全体の 20.6%（合計 440 件）を占めたが、年間 1-4 件の在宅看取りを実施している 244 医療機関で在宅看取り全体の 24.2%（合計 525 件）を占めており、地域の在宅看取りがロングテール化していることが明らかとなった。今後の訪問診療実施を検討していると 69 医療機関から回答があった。また、訪問診療を実施している 468 医療機関の回答からは、75.4%が 1 人医師体制であること、訪問診療に従事している 714 名の医師の 36.7%は 60 歳以上であること、24 時間対応の負担は 41.5%が中等度より大きいと回答した。

考察

在宅医療の推進には、地域の在宅看取りがロングテール化しているため、各医療機関が今よりも 1 件でも在宅看取りを実施できるような体制の支援が重要である。また、一人医師体制の医療機関で高齢化の問題もあるため、24 時間体制をどう連携して支えていく体制を構築できるかが重要である。